



# 職員も高齢化する施設で ICT推進!?

～高齢化率53.8%の消滅可能性自治体にある小規模特養  
高齢化する職員体制で無謀!?とも言えるICT化への挑戦の物語～

社会福祉法人梓友会 特別養護老人ホーム太陽の里

1

西伊豆町の概要・特徴

【立地】  
伊豆半島西海岸の中央部に位置、総土地面積の約81%が山林。美しい景観や温泉で有名

【人口】  
6,549人 (2025年5月1日現在)  
※人間よりもシカやイノシシが多い!

【高齢化率】  
53.8% (2025年推計、県内1位)  
後期高齢者の割合：33.7%

【少子高齢化】  
2024年度の新生児出生数は5人。過去最低を記録

【消滅可能性自治体】  
2020年から2050年までの30年間で、20歳から39歳の若年女性人口が50%以上減少すると予測される自治体に分類

2



隣地に引っ越してきたニホンアナグマ (イタチ科アナグマ属、属名：ムジナ)  
※野生動物との共存が求められる

3

施設の概要・特徴

【開設】 平成13年11月13日

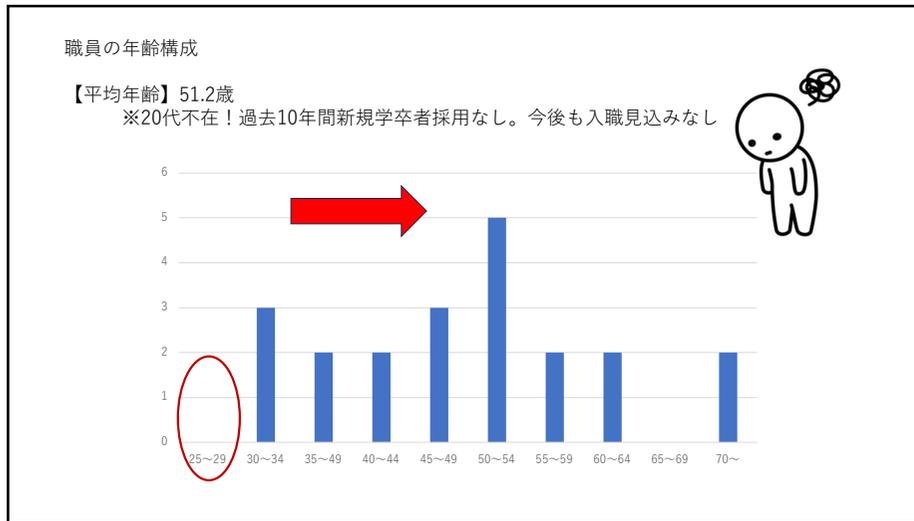
【事業】  
・特別養護老人ホーム：  
30床 (多床室20、従来型個室10)  
・ショートステイ：  
10床 (従来型個室)  
・ (デイサービス：30名、単独型、別敷地)

【建物】 2階建てRC構造 一部プレハブ  
1階：事務室、厨房、機械室、ショートステイ (従来型個室)  
2階：特養 (多床室20、従来型個室10)、浴室

【職員体制】 施設長(兼介護支援専門員)、事務、相談(+兼務1)、栄養、看護2  
介護職15名(+兼務1)、介護補助3(障害2)、委託(給食、清掃、警備)

【平均年齢】 51.2歳 (令和7年度末見込み値)

4



5



6

法人本部・系列事業所、ソフトウェア会社の後押しもあり

【1】令和3年度より「介護ソフト導入プロジェクト」強行

導入ソフト：CARE KARTE（ケアコネクトジャパン）  
現状調査、インフラ整備、講習・操作説明、試験運用  
令和3年11月より本格運用開始

障害となったのは：講習・操作説明（想定内だけど）

- ・当時はコロナ禍であったため不慣れなWeb講習を強いられた。双方向であっても質疑応答にはハードルが高い
- ・習得度合いの差が生じないよう受講メンバーの構成に配慮
- ・運用後も遠隔サポートを活用

手書きの記録→電子化、受け入れ～請求までの一元電算化に成功！

7

【2】令和7年度より「ICT機器の導入・運用」強行

導入機器：インカム5台  
生産性向上委員会の立ち上げ・運用

もうすぐ終わります。次の方の準備をお願いします

夜でもすぐに連絡が取れるから安心！

●●さんの介助、一人では無理なので応援をお願いします

介助の終了案内ができて、順番待ち時間が短縮され便利。時間の余裕ができた

大声を出せない夜間、静かで迅速な連絡が可能になった

一人で介助できない時に、応援の連絡がすぐにできた

8

## 収益上の効果

- 【1】令和6年8月より  
「科学的介護推進体制加算」取得開始  
LIFE情報提供開始など加算取得要件に準拠
- 【2】令和7年5月より  
「生産性向上推進体制加算」取得開始  
ICT機器の活用による生産性向上、委員会の設置など、加算取得要件に準拠

## 活動の評価

- ・ICT機器やソフトウェアの進化により思いの外、運用はスムーズ。「ハードルが高いもの」という思い込みの克服が課題だったのではないかな？
- ・導入相応の負担軽減・業務効率化の効果は得られた

9

## 今後の課題

- 【◎】
- ・既存ナースコールシステムの更新
  - ・介護ソフトとの連携
  - ・多様なICTデバイスの導入連携推進
  - ・多様なソフトウェア、アプリ導入による間接業務の効率化
  - ・各種加算取得または減算回避
- 【×】
- ・職員の高齢化→施設なのに老々介護!?, 体力・体調・最悪の場合認○症…
  - ・上記に取り組める職員がいない
  - ・施設の存続：自治体同様に施設も消滅可能性事業所？

10

## 「次世代を担う若者に来てほしい！」切実な願い

- ・法人独自の福利厚生：家賃・資格取得などの補助、子育て支援など  
詳しくは校友会ホームページ <https://www.shiyuukai.or.jp/>
- ・町を挙げた移住促進の取り組み  
詳しくは西伊豆町ホームページ <https://www.town.nishiizu.shizuoka.jp/>

↓「広報にしいず」2024.5月号抜粋↓

## 活動への意気込み

当初は、移住者目線で、町に対して「もっとこうしたいのに」と、ただ思うこともしばしばありました。しかし、移住後の4年間で町の事情や地域の特色も徐々に分かってきました。

相談者の前に立つと「西伊豆が好きで移住したいが、住む家がない。」「仕事がない。」「サポートがない。」という声があります。片やその一方で、町の中では「働き手がない」「地域の担い手がない」「行事が出来ない」「子どもが少ない」などの声も耳にします。それぞれを別個の課題ととらえるのではなく、人と空き家、空き家と仕事、人と仕事、地域と人、そして人と人、いろいろな組み合わせでマッチング出来たら素敵ではないかと考えています。

当初単身で移住してきましたが、1年後に妻が移り住み、こちらで出産も経験しました。私のこれまでの経験も活かし、移住者と地域の間で、素敵なマッチングを出来るようにこのプロジェクトに関わらせて頂きます。

2 2024.5 広報にしいず

11

ご清聴ありがとうございました



12